

ヤースンの質問に 1998 年 2 月 6 日にお便りする。

ご質問のところから書いていきます。息子の件ですが二度目の 1970 年、サンフランシスコの時、高校 1 年を中途退学して連れて行きました。やはり画家志望でした。貧乏暮らしと絵を描くのに愛想をつかし私の友人から少々のデザインを習って日本料理店で旅費をかせいで 1 年位で日本に帰りました。それが、いつの間にかまた画家を目指していたので驚きました。私はなにも賛成、反対する「力」は、初めからなく。親馬鹿になりようもなく。まあ、私ぐらいの画家にはすぐなれるのではないかと未だに思っています。息子は 43 歳になっています。

松明堂ホールの件、友人兼画商という人物が 6 名ぐらい居て金にもならないのに私を取り仕切っています。いうなれば猿回しの猿が私で。殆どが画廊経営者ですが絵が売れるということではありません。広告、大型葉書と色々経費を使って盛大にやっていただいたのに 1 点も売れませんでした。それでも感謝して下さっているそうです。しかし時々売れるから我ながら不思議というより深く深く友人に感謝です。キリスト教について信者では有りません。70 歳にもなるので少々私自身考えざるを得ません。その第一歩としてキリスト文化を考えてみてユダヤの問題の大きさに驚き、その一角、絵画でどうキリスト文化を乗り越えるかと思いましたが、問題の大きさに現在は断念しようと思っています。それで色々拾い読みしている次第です。

私の手紙、大体、分かり難いので有名です。本人が分からずじまいで書いてゆくのですから。後日、本人が判読に苦しんでいます。こちら辺が私と篠塚先生との違いなのです。これは後でふれます。「先生」と私が呼ぶ件、大体、先生の理解で間違い無いのですが、本当に偉い人にも子供にも先生とおしなべて言っています。その偉い人と子供が同時のときがあります。本当に困る時があります。そんな状況をどうして誤魔化し、あるいは本気で私自身の処世、生きかたを「問われる」場が簡単に得られるという奇妙な「よさ」があります。病的なのかもしれませんが、表現に関心を持つ、篠塚先生ふうに言えば個性に乏しい私の個性育成方法になりはしないか。と考えていますが、実際はおかしな現象を持っています。私が誰でも彼でも「先生」と呼ぶのだから、始めての方は「辞めてください」というか。同年輩はかえって喜ぶ方が多いのも事実ですが、向こうが私に向けて先生と呼ぶ場合、横にいる女房、この方、画家なんですけど自慢じゃないが結構まじめで固い。決して先生とは言わない。やはり横着者とみられます。それに変わりはありませんが、主人である私が「先生」とお呼びするので当然、女房も先生と呼ぶべきと普通、先生と呼ばれている人は何故、奥さんは先生と呼ばないのかというような顔をされます。それ故、私はすぐに中村純子先生と呼び私がいかに女房に惚れているか、いかに立派な女性かと、あること無いこと盛大に褒め称えます。それで女房の友達は本当に貴方の日那は優しい人

だとうらやましがるといいます。古い友人は「桜井さんは人が悪い」といっています。先生と煽り上げていてすぐにストーンと本音を出す。だから私はよく言うのです。「桜井に願われてはいけません。用心なさい」と。

さて、此処からが今日のお便りです。ニューヨークタイムズ有り難うございました。絵ですか、説明図は新聞紙面ですが迫力を感じます。私の理解するところでは「素直にヤスーンを篠塚先生の言葉通りに信ずる」これに尽きます。後の言葉はありません。別言すれば私には入る余地はないほど際立って真理に迫る方法だと思います。私の言葉は真実ではなく出発なのです。そこが篠塚先生と私の大きな違いです。

篠塚先生は全く羨ましいほどの問題点を捕らえ勇敢にも長い時間をかけて証明している姿。その全容は「独創性の裏の危険」という文章に分かりやすく表現されています。もうそれだけで感動です。この事実をおさえて全容解明に突き進む。もしくは解説から事実を説得して行く。とでもなるのでしょうか。

「ヤスーン」が全て。命題が明瞭ですっきりしている。剛直で明快。この一端が奥様を大切に出来た大きな要素となったのではないかと私は推察して心から御立派だと思うわけです。なにが人間をそうさせるのか。コペルニクスが発見しなくても地球は自転しているのだから危険をおかしてまでもと考えることができます。「ヤスーン」なにも篠塚先生が生活苦を賭けて発表することなく、そのうち別の人が発表してもいいわけです。辞典には1509年にハイデスベルクで牧師となりフラウエンブルクの寺院の住職となって生涯を過ごした。となっています。篠塚先生もコペルニクスもそうはしなかった。別言すればコペルニクスから地球の自転は始まった。「ヤスーン」は篠塚先生から始まった。ということになります。文化史的にはそう言えるのではないかと思います。